トップ・ハット（1935）

TOP HAT

メディア 映画
ジャンル ミュージカル　ロマンス
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 99分
初公開日 1936/01
公開情報 劇場公開

【解説】

ウディ・アレンの、映画好きには応えられない佳作「カイロの紫のバラ」のラストの映画館での場面、あの哀しいヒロイン、ミア・ファローが至福の表情を浮かべて眺め入ってるのが、まさにこの作品である。“Heaven,I'm in Heaven...”の唄い出しで知られる“Cheek to Cheek”のダンスをミアは恍惚とみつめる。これ以上適切な映画による映画の批評があるだろうかと思わせる、アレンの名人芸。ま、それはともかくとして、この曲と“Isn't This A Lovely Day”をI・バーリンが本作のため書き下ろした事実だけで、本作は映画史ならぬポピュラー音楽史に永遠に刻まれる傑作なのだ。ロンドンに招かれたアメリカのダンス・スター、ジェリー（アステア）が興業主ホーレス（ルビッチ作品等でおなじみのホートン）と共に滞在中のホテルに、ヴェニスで過ごすホーレスの妻マッジから、週末に彼に紹介したい女性がある旨の連絡が入る。気をよくした彼は部屋で一踊り。これがハメを外しすぎで、下の部屋に住むアメリカ娘のデール（ロジャース）から苦情が…。そこで、ジェリーはタップを柔らかなステップに即座に変えて、彼女の機嫌を取る。翌日、公園に乗馬に赴いたデールはにわか雨に音楽堂で雨宿りをすると、馭者の格好でジェリーが“素敵な日じゃないか”と歌いかけ、そして、もちろん二人のダンス。最早、互いに心魅かれあう同士なのに、マッジの“仲人”に皆が混乱して、という展開は、この種のミュージカル・コメディの約束事。情報のすれ違いからの誤解が当然、最後には晴れやかに消滅して、カーニヴァルでのダンスで賑やかに締め括られる。楽曲も踊りも（ストーリーはともかく）アステア＆ロジャース作品の中ではベスト。文句なく幸福な映画だから、アレンはああいうしんみりした引用の仕方をしたのだ。“せめて映画で幸福になってくれ”と……。

【クレジット】

監督	マーク・サンドリッチ	Mark Sandrich
製作	パンドロ・S・バーマン	Pandro S. Berman
原作	ドワイト・テイラー	Dwight Taylor
脚本	ドワイト・テイラー	Dwight Taylor
	アラン・スコット	Allan Scott
撮影	デヴィッド・エイベル	David Abel
音楽	アーヴィング・バーリン	Irving Berlin
	マックス・スタイナー	Max Steiner
出演	フレッド・アステア	Fred Astaire
	ジンジャー・ロジャース	Ginger Rogers
	エドワード・エヴェレット・ホートン	Edward Everett Horton
	H・ブロデリック	
	ルシル・ボール	Lucille Ball

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.